地域課題の解決に向けた取組

地域の造林・保育に係る省力化およびコスト縮減

上川中部森林管理署

【はじめに】

上川中部森林管理署は、北海道のほぼ中央、石狩川の上・中流部に位置しており、15.8万haの国有林を管轄しています。

当署管内の森林の特徴は山岳部を中心に、国内でも有数の針葉樹と広葉樹が混ざった天然林地帯となっており、その多くは大雪山国立公園をはじめとする公園地域等になっています。

湿地、高山帯など、特殊な立地条件の下に成立している植物群落も多く、学術的な価値が高いことから「森林生態系保護地域」等の保護林の設定も行っています。

また、大雪山系は、十勝岳をはじめとする道内有数の火山地帯であり、山地災害防止機能の発揮が求められている地域でもあります。

【地域の課題】

造林を中心に事業体、森林組合の労働力不足や高齢化が著しい中、林業採算性の悪化も伴い、森林所有者の施業に対する関心も薄い現状となっています。

主伐・再造林の循環を確実なものとするためにも、地域の造林、保育に係る省力化およびコスト縮減に向けた意識の醸成が必要であり、森林所有者の森林施業に対する関心を高めることが喫緊の課題と考えます。

民有林では経済性等により森林施業技術開発の実施が難しいことから、国有林フィールドでの有効性等の検証を強化していくことが必要です。

全回転格子バケット地拵風景

【地域の課題に対する取組】

当署においても地域の課題として「地域の造林・保育に係る省力化およびコスト縮減」を掲げており、平成30年度から「多様な大型機械地拵が下刈作業に及ぼす影響」について調査し、地域に発信しています。

具体的には、伐採から地拵・植付までの一貫作業において、主伐後に①人力（刈払機）②バックホウ③グラップルレーキ④全回転格子バケットの4手段で地拵を実施し、それぞれの作業効率や地拵後の笹等の発生状況、植栽木（カラマツ）の成長量を調査してきました。

刈費用を算出して、地拵から下刈までの全体を通したコスト比較検証を行います。

低密度植栽箇所

その他に「多様な植栽密度における成長比較」として、0～1750本／haまでの試験区を設定しての生存率や枝の張り方を含めた成長調査を行っています。

また、新たに「多様な下刈方法がコンテナ苗の成長に及ぼす影響」として様々な下刈試験区を設定しての省力化調査も行っています。

これら試験地において、上川地域の市町村林務担当者も参加した小規模現地検討会を開催した結果、関心も高まってきています。

小規模現地検討会の様子

【今後に向けて】

試験地における検証等を継続的に実施し、現地検討会等の開催により、市町村林務担当者等の国有林の取り組みへの理解を深めることと併せて、林業効率的な作業により、造林・保育の省力化等に向けた意識が高まるよう取り組みを今後も進めていきます。